

## 銅賞 宮崎さおり君

### 札幌建築デザイン専門学校建築工学科 「自然」と一体になるホール

札幌市内に現在ホールのある場所での計画であり、敷地の選定から現在のホール建築への批評精神が根底にあることが伺える。空間構成はシンプルである。ホールをはさみ東側に観客用のホワイエ、西側に出演者用のホワイエを設け、大通公園に面する南側の3層部分に両者が出会う交流ラウンジを設けている。ホールとしての平面計画、断面計画、交流ラウンジの具体的な機能のイメージなどに問題はあるが、吹奏楽の経験者としてバックヤードに豊かな空間を確保したこと、観客との交流の場を設けたこと、それらを立地環境に活かし明快に整理していることから銅賞に値すると判断した。

(文責：菅原 秀見)

